

## テニス



ベテランテニス愛好会

休憩室脇の池と桜

桜(山桜)の花(2008)

休憩室脇の紅葉(2007)

私は、ほぼ1年前から、毎週水曜日と隔週日曜日にベテランテニス愛好会(中島テニスコート:ひたちなか市津田)に参加してテニスを楽しんでいます。この会のメンバーは最高88歳から若くて52歳の男女約40名です。私は今年65歳になりましたが、この会の中では、うれしいことに、若い者に分類されます。年長メンバーの方はそれぞれ高いレベルで労働年齢を過ぎて来た方ばかりのようですが、ここでの活動では過去の地位や組織は関係ないということがうれしいことです。

「なぜテニスをやるか」の第一はテニスをやっている楽しいからです。第二は健康維持(内臓脂肪のコントロール)第三は会社の仕事が無くなってしまったことなどでしょうか。テニスの上手な人で、シニアの全日本ランキング入りや上位ランキング入りを目指して鍛錬している人が多く居ることも知っており、その方たちを羨ましくも思います。しかしながら私には、各地の大会に参加し、またこの大会で勝利することを目標にハードな練習を積み重ねることは、これまでの会社生活の目標と重なって見えてしまいます。人生-目標を持つことの重要性は認識しておりますが、上記目標は好きではありません。好きではありませんが、これから時間があるので大会には参加して見ようかなあーとも思ったりして、複雑な心境です。

定例会は定刻は10時と聞いていますが、朝9時少し前になると熱心な会員が現れて、トイレや休憩室の掃除、場合によってはコートの水掃き、ベンチクッションの準備、ネット張りなどをてきぱきとこなして、9時には練習を開始します。私も、朝皆が集まる前の練習は効果があるため、極力早くから参加するようにしています。やがて皆の練習が終わると竹筒に入っている割り箸を一人一人抜き取って、割り箸に記入されている番号で試合の組み合わせを決定します。この方法は皆平等に遊べる点で優れています。コートは2面あって、番号の小さい組み合わせがAコートに入ります。Aコートは普通のハードコートですがBコートは表面が少し滑りやすく、またコートの片側が少し地盤沈下しているコートです。このためAコートの試合が終わったら必ずBコートからAコートに移動します。この点でも皆平等に楽しめる仕組みになっています。

試合は4ゲーム先取で行います。男も女も中年寄りも小年寄りも皆相対することになります。皆様実には上手な方ばかりです。なるべく効率的に返球する術が上手でボレーなどもあまり上体を捻らずにこなします。世間ではおばあさん、小生からみるとお姉さんのプレーヤー達は、スピードがあまり速くない代わりに、プレースメントがすばらしいです。

昼食は中島邸コートの休憩室で摂ります。休憩室の近くには小さな池や桜の古木、もみじの大木などがあって、季節の移り変わりを楽しみながら食事が出来ます。この食事にも人のつながりが感じられて好きです。私はたいてい近くの寿司チェーン店でバッテラなどを買ってきてこれを頂きますが、机の上には、上手に作られたケーキ、季節季節の食材を使った手作りの料理、季節の果物などが並ぶことが多くあります。また広い中島邸の畑で採れた野菜や竹の子を、農業をしている人は自家野菜などをたくさん持ってきて皆に分けてもらったりします。この社会では、いわゆるおすそ分けの精神や喜びを共有する心、仏教的表現をすれば無我の心が感じられます。食事をおいしくいただけることが人生においていかに重要であるかも教えてくれます。

ベテランテニス愛好会の代表は今年84歳の菊池榮助さんです。菊池さんは高齢(自らは若いといっています)にもかかわらず、大抵最終までテニスを楽しまれるだけでなく、試合のため全国を回ります。そしてベテランテニス愛好会の会報を、元気に生きよう100万時間というキャッチフレーズで、毎月発行してくれます。この会報は各メンバーが元気に活躍した証ともなるものであり、小生は大事に保存しています。どんな組織でも良いリーダー(取りまとめ者)がいる

最長老の中島正周(まさちか)さんはコートオーナーですが最近はあまりプレーに参加しません。ところがこのオーナーはインドネシア独立の立役者の一人で当国では今でもVIP扱いを受けると聞いています。毎年独立記念日には招待されるとも聞いています。インドネシア独立の様を描いた「ムルデカ17805」という映画の製作にも関与しているようです。これらの関係と思われませんが、今でも毎年ベテランテニス関係者とインドネシアとのテニス交流旅行を続けています。小生は今年までは会社勤めがあって参加できませんでしたが、次回は是非参加してみたいと思っています。

2008年10月

[ホームに戻る](#)